

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市大野田児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》25,556人 (前年度比 74.6%) 令和元年度 34,257人 平成30年度 35,911人 平成29年度 34,322人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 48,389千円 (43,005千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>新型コロナウイルス感染症予防対策に努め、子どもの最善の利益を念頭に子どもの主体性を尊重し、様々な工夫をしてできる限り遊びを継続させました。安心・安全な環境の下で子どもたちを育成していけるよう情報共有し【「ともにいきる」みんなの笑顔のために】をキャッチフレーズに児童館運営に努めました。</p> <p>【児童健全育成事業】</p> <p>中高生の来館も始まり、毎月第二、第四土曜日にスポーツDAYを開催し、遊戯室でスポーツをして楽しむ姿や職員に悩み相談、話し等の目的で自由来館をする生徒もあり、中高生にとっての居場所となりました。</p> <p>【子育て家庭支援事業】</p> <p>転出入者が多い地域特性を踏まえ、登録制ではなく、いつでも参加できる年齢別プログラムを開催しました。また、保護者支援を重視し、母のための行事を開催したり、隣接する児童発達支援センターと共催の行事を増やし、発達障がい等の早期発見に努めました。</p> <p>【地域交流推進事業】</p> <p>クリーン作戦と称し、近隣の公園に遊びに行った際にはゴミ拾いをして地域の清掃活動に貢献し、子ども達が地域の一員としての自覚を持てるよう促しました。</p> <p>【放課後健全育成事業】</p> <p>職員手作りのお手玉やコマを全員に配りお手玉・コマ検定をしたり、密を避けるために、個人でできる工作等を中心に遊びを実施しました。また、コロナ禍での不安な保護者や児童へのメンタルサポートも徹底しました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>健全育成事業においては、中高生を対象にした「スポーツDAY」を自由来館が開始した10月より開始し、遊戯室での卓球とバドミントンの定期的な利用があり仲間同士の交流や小学生との交流が見られた。加えて、富沢中の1年生対象にアンケートを取って児童館への要望を聞くなど地域における子ども達の居場所作りに積極的に取り組んでいる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、年齢ごとの「タイム」活動を定期的に開催し、季節の工作や親子の触れ合い遊び、絵本の読み聞かせ等を行ってきている。また、近隣のたんぼぼホームと連携した「たんぼぼDAY」では、発達の心配なお子さんの相談にも応じている。地域柄、新興住宅が多くコロナ禍の状況下で孤立していた親子にとって子育ての悩みを相談したり、母親同士の交流ができるなど地域における情報共有や仲間作りをするための参加者同士の交流の場となっており、子どもと子育て家庭を支援する環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子どもが安心して過ごし、保護者が安心して預けられる場とすることを大切に遊びや生活を見直してきている。個人の遊びの充実をはかる1つとして「お手玉検定」を開催し、児童全員に一人2個のお手玉を職員自ら手作りしてプレゼントして活動を盛り上げるなど、例年取り組んでいた昔遊びの継続を児童クラブ中心に取り組み次年度につなげている。他にも工作タイムやミニお祭り、野菜作り、など様々な行事を取り組み、日々の活動を充実させている。さらに、高学年児童が司会をして進める「子ども会議」を開き、自分たちでコロナ禍の過ごし方を話し合いポスターにして知らせるなど子どもが生活や遊びの中でリーダーシップを発揮できるように支援し、子どもの主体性や社会性を育てている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項